

「第2回指定管理者制度による県立志摩病院の運営に関する検討
会議」議事概要

日時：令和元年11月22日（金）

18：45～20：25

場所：三重県志摩庁舎 2階大会議室

【出席委員】

住民代表者：松井委員、山下委員

医療関係者：伊藤委員（会長）、中村委員、日比委員、楠田委員

福祉関係者：和田委員

自治体等関係者：阪本委員、永田委員

【事務局】

・三重県病院事業庁

加藤庁長、長崎副庁長 河北県立病院課長 ほか

・三重県医療保健部

松浦地域医療推進課長 ほか

【傍聴者】

2名

【報道機関】

1社

【議事概要】

（1）事務局説明

- ・資料1 県立志摩病院の指定管理者制度に係る実施方針（構成案）
- ・資料2 県立志摩病院の指定管理者が行う「診療等に関する業務範囲」（案）
- ・会議資料 第2回指定管理者制度による県立志摩病院の運営に関する検討会議資料（追加データ）
令和元年度第1回伊勢志摩地域医療構想調整会議（概要）

（2）委員からの主な意見

- ・現行の標榜診療科（14診療科）を全て維持することが必要なのか。限られた医療資源を集約し、真に必要な部分（救急など）を充実させるべきである。地域のニーズを考慮すべきことは理解できるが、実績を見て必要性が明らかでないのであれば、決断も必要ではないか。
- ・小児医療について「常勤医師による安定的な外来診療を行うこと」とあるが、三重大学からの派遣が難しい中、実現は難しいのではないか。
- ・小児外来は、市民の要望が非常に高く、ぜひ優先事項として取り組んでいただきたい。

- ・周産期医療については、出生数等を考慮すると、志摩病院で産科機能を担っていくのは厳しい。市内の助産院のフォロー（医学的助言とトリアージ）という形が現実的ではないか。
- ・へき地医療について、離島、へき地等の診療所への代診医派遣は理解できるが、離島への巡回診療は負担が大きく、まずは自院の体制の充実を優先すべきで、あり方を見直すべきではないか。
- ・志摩病院と三次医療を担う病院（伊勢赤十字病院）との連携について明記されており、とても安心した。
- ・地域医療全体の質の向上に関して、志摩病院は救急も不十分であり、地域医療支援病院の役割を果たしているか疑問である。
- ・志摩病院は災害拠点病院でもあり、機能を維持できるようお願いしたい。
- ・全体的に、必須項目と努力項目とが分かるよう記載すべきである。
- ・公募条件をあまり厳しくすると、公募に応じる事業者がいらないのではないか。